

令和4年度 特色ある道徳教育推進校

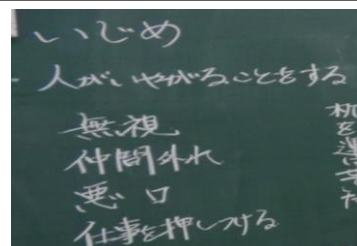
館山市立那古小学校

研究主題 最適解を導き出し、実践する子の育成をめざして
— 「考え、議論する」道徳科の授業を通して —

取組1 考え、議論するための授業づくり

〈導入〉主題と自分を結び付け、課題意識をもてるようにする。

- ・道徳的価値に関する考えや経験を問う。



〈展開〉教材に対する児童の考えを引き出し、多様な考えをもつ他者との議論により、本時のねらいにせまる。

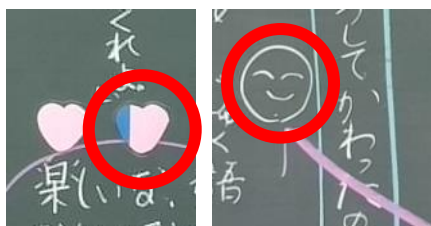
(1) 教材提示の工夫

- ・教材の内容の理解や登場人物の気持ちの変化を考えやすくするために、教材を分割して読んだり、挿絵を提示したりする。

(2) 発問の工夫

- ・基本発問や中心発問①では、道徳的価値を理解するために、教材に関する発問をする。中心発問②では、「自分だったら？」など、自分事として考えるようにする発問をする。

(3) 道徳的価値について考えるための工夫



- ・登場人物の気持ちや自分の考えをより具体的に表現できるように、「表情マーク」や「心の色カード」などの思考ツールを使ってノートに考えを書く。
- ・「意思表示カード」などを用いて自分の立場を明らかにする場を設定する。
- ・登場人物の行動や気持ちを考えやすくするために、児童の意見を図式化・可視化した構造的な板書をする。

(4) 議論するための工夫

- ・話し合いの形態を工夫する。(ペア、グループなど)
- ・児童の発言やつぶやきに傾聴する。
- ・問い返しなどの補助発問(映像資料前半参照)によって、道徳的価値を多面的・多角的に捉え直し、考えを深める場を作る。(映像資料後半参照)



〈終末〉多面的・多角的な思考や議論を通して、一人一人が「最適解」を導き出す。

- ・「今日の学び」として、本時で学んだことや考えたことをもとに、自分はこれからどうしていくか、本時における自分の「最適解」を導き出す。

取組2 「セルフチェックシート」の活用

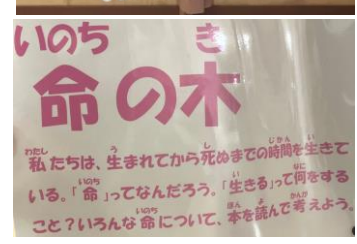
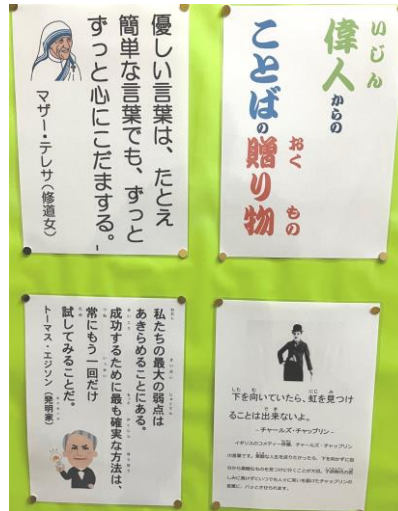
- ・道徳科の授業後、那古小独自の「セルフチェックシート」に、取り組んだ手立てとその成果を記録し、効果のあった手立てをまとめる。

展
開

- ② 問題場面について深く考えられるような切り返しの発問をした。
- ③ 児童・生徒の思考の手立てとなるような板書の工夫をした。
- ④ 道徳的価値を基に自分の考えをもたせる場を設定した。
- ⑤ 意見や考えを伝え合い、多面的・多角的に価値を深める場面をつくった。
・グループやペアの話し合い・役割演技 等
- ⑥ 発言を傾聴して受け止め、考えを深めるために全体に波及させた。
- ⑦ 自分自身の経験と照らし合わせたり自分事として考えたりして、
考えを深めさせる発問や場を設定をした。

取組3 環境整備

- ・児童の思考や道徳的実践の補助となるように各教室に道徳コーナーを設置し、道徳的価値の意識化を図る。
- ・廊下や階段に道徳コーナーを設置し、学校全体が道徳的諸価値を意識できる環境となるようにする。



成果と課題

- 児童の実態に合わせて問い返しなどの補助発問の内容を十分に吟味し、授業に臨むようにしたので、児童が自分事として、自分の考えを明確にもって話し合うことが多くなった。
- 道徳科授業の充実のみならず、全教育活動の充実へとつながった。例えば、児童会活動では、各クラスから提示された課題を、児童会役員が中心となって各クラス代表等と話し合い、道徳的諸価値を意識した解決方法を考え、主体的に実践する姿が見られた。
- 道徳科の授業づくりにおいては、教材に含まれる複数の道徳的価値のうち、何についてどのように児童に考えさせるのかといった教師の明確な意図が不可欠である。日頃の児童との関わりの中で、道徳的価値に根差した問題について、どのようなことが身に付きつつあり、どのようなことが課題として残されているのかを把握して、「考え、議論する授業」を構想する必要がある、引き続き研究していきたい。

授業実践事例

小学校 第1学年 道徳科学習指導案

1. 主題名 「勇気を出して」 A 善悪の判断、自律、自由と責任 (県の視点「かけがえのない自分」)
教材名 「ダメ！」

2. 指導観

①教材を分割して読む。教材を一度に全部読むのではなく、まず、前半部分を読み、登場人物の葛藤を十分理解した上で、教材の後半部分を読む。そうすることで、勇気を出して行動した登場人物と一緒に、充足感を味わわせたい。②大型モニターで挿絵を提示し、教材を読み聞かせる。教材を教師が読むときは、大型モニターで挿絵を提示し、物語の内容理解の助けとする。同時に挿絵の表情に注目するようにして、その心情も感じとらせたい。③ペアで意見交換をする場を設ける。ペアで話し合うことで、全員が自分の考えを友達に伝えたり、友達の意見を聞いたりすることができる。登場人物の複雑な気持ちについて、全員が話し合いに参加し、自分と異なる考えにふれることができる。

3. ねらい

くまくんに対するりすくんの気持ちや行動について考えることを通して、勇気をもって行動することのよさに気づき、自ら正しいと信じることをしようとする意欲を育てる。

4. 展開

流れ	学習活動	指導上の留意点(・) 評価(◎)
導入 5分	1. 友達と過ごして嫌だなと思ったけど、嫌だと言えなかった経験について話し合う。 ○嫌だなと思ったことはありますか。 ・嫌なことを言われた。 ・順番を守ってくれなかった。 ○嫌な思いをした時にどうしましたか。 ・「嫌だ」と言った。 ・我慢した。 ・先生に言った。	・嫌だなと思ったことを思い出すようにたずね、自分の経験を振り返るようにさせる。 ・嫌なことがあったとき、どうしたかを聞くことで、児童の経験を把握する。 ・嫌だったとき「嫌だ」と言えなかった児童の経験を取り上げ、本時の学習へつなげる。 ・嫌だったと言えない時、どうしたら良いかを考えるという、学習の方向付けをする。
	2. 本時の学習のねらいを確認する。 友達に「嫌だ」と言えないとき、どうしたらよいだろう。	
展開 30分 (15)	3. 教材(P.60L11 まで)を聞いて、りすくんの気持ちをノートに書き、話し合う。(ペアー全体) 発問① くまくんにプリンを食べられて、りすくんはどんなことを思ったでしょう。 ・くまくんは、勝手にプリンを食べてひどい。 ・ひとのプリンを食べるなんて、ひどい。 ・大きなプリンを食べられて悔しかった。 ・くまくんに何も言えなくて、悔しかった。 ・「ダメ！」って言えない自分が嫌だ。 ・くまくんに自分の気持ちが、わからないままなのは、嫌だ。 ・これからずっと同じようなことがおこるのは、嫌だ。	・教材は、教師が読み聞かせをする。大型モニターで挿絵を提示し、内容を補足しながら読み聞かせることで内容の理解を図る。 ・プリンがりすくんの好物だったことを、くまくんに「ダメ！」と言えなかったことを、中心にあらすじを確認し、内容を把握させる。 ・ペアで考えを伝え合うことで、自分とは違う意見にも触れさせ、りすくんには、様々な気持ちが混在していることに気付かせる。 ・くまくんは、体も声も大きく、いつもりすくんが、おもちゃやブランコを譲っていたことにふれ、りすくんは、それまで、くまくんに自分の気持ちを伝えずに我慢していたことに気付かせる。 ・りすくんの気持ちを話し合うことで、本当の気持ちの通りに行動できなかったりすくんの悔しい気持ちを確認する。 ・りすくんの悩んでいる原因を考えさせることで、りすくんは、本当の思いを言いたいという気持ちと、くまくんをこわがって本当の思いを言わずに我慢しようとする気持ちの間で葛藤をしていることに気付かせる。 ・教材は、教師が読み聞かせをする。大型モニターに挿絵を表示し、内容を補足しながら読み聞かせることで内容の理解を図る。
	4. 教材(P.63 まで)を聞いて、いちごを食べたときのりすくんの気持ちを話し合う。 発問② 次の日に、くまくんといちごを食べたときのりすくんの気持ちを考えよう。 ・自分の気持ちを言えて、すっきりした。 ・くまくんが、自分の気持ちを分かってくれてうれしい。 ・くまくんと、前よりも仲良くなれて、うれしい。	・りすくんとくまくんが仲良くいちごを食べている様子から、りすくんが自分の気持ちを言えたことの充足感が気付かせる。 ・くまくんが、りすくに謝ったことに注目させ、くまくんがりすくんの気持ちを理解してくれたことに気付かせる。 ・笑いながらいちごを食べる2人の様子から、以前のくまくんに対する怖いという思いが変化することに気付かせる。
(5)	5. りすくんが、勇気を出してよかったことを話し合う。 発問③ りすくんが勇気を出してよかったことは何だろう。 ・自分の気持ちを言えて、すっきりした。 ・くまくんに自分の気持ちを分かってもらえた。 ・言いたいことを我慢してしまう自分を変えることができた。 ・くまくんともっと仲良くなれた。 良いと思ったことは、勇気を出して言ったほうが良い。	・「言いたい」と「我慢する」で葛藤していたりすくんを振り返り、それまでの自分やくまくんとの関係を変えたいという気持ちが勇気を出したことで、叶ったことに気付かせる。 ・正しいと思ったことを勇気を出して言ったことで、良い結果につながっていったことを確認する。
終末 10分	6. 「今日の学び」をノートに書き、発表する。 ・自分が正しいと思うことは、勇気を出してやるのが大切。 ・友達でも、まちがっていることは、言ってあげないと伝わらない。	・自分の気持ちを相手に伝えることよさを学級全体に広める。 ◎勇気をもって、行動することよさに気付いている。(ノート)

嫌だった経験をすぐに発表することが難しく、教師の経験を話し、同じような経験がないかと発問した。教師の話の聞いたことで、似たような経験が自分にもあったことを思い出すことができ、指導上の「学習のねらい」への意識付けができた。

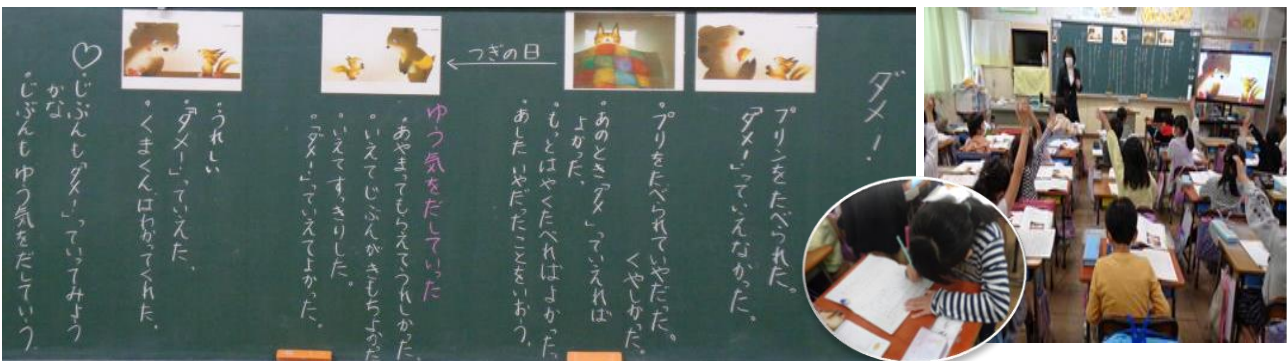
読み聞かせの際に、挿絵を大型モニターで提示した。児童は教材に集中し、内容理解の助けとなった。

教材を分割して読み聞かせをしたことで、後半にある物語の結末を知らない状態で、りすくんの迷いに気付き、自分の考えをノートに書くことができた。

ペアで話し合うことで、友達の意見を聞いて、自分と異なる意見に触れることができた。友達の意見を聞いて、自分のノートに話し合いで考えたことを書き足す児童の姿も見られた。

りすくんが勇気を出してよかったことを考える場面では、りすくんとくまくんが、前より仲よくなったことに気付くことは難しかった。発問①の話し合いで、りすくんとくまくんの関係の状況把握が不十分だったため、関係の変化に気付きにくかった。

りすくんが勇気を出したことで、それまでの迷いが解消されたことを知り、「自分も勇気を出してやってみよう」など、自分の最適な考えを「今日の学び」に書くことができた。



○協議会より

- ・児童が自分の考えをノートにたくさん書いていた。教師が児童の考えをノートから把握し、指名計画を立てることで、ねらいに導いていくことができる。
- ・授業の中で、指導者が児童の思考を深めるための切り返し、問い返しの内容や言い方を事前に十分に検討して準備しておく必要がある。

小学校 第5学年 道徳科学習指導案

1. 主題名 「真の友情」 B 友情、信頼 (県の視点「支え合う喜び」)
 教材名 「ロレンゾの友達」

2. 指導観

①話し合い活動の工夫をする。3人の友達のロレンゾに対する考え方の共通点や相違点を考えたり、自分の考えは誰の考えに近いかと自分の立ち位置を考えたりすることで、さまざまな道徳的価値について考える場を設定する。②立場を明確にする。話し合い活動では、ネームプレートを用いて自分の立場を明らかにすることで、自分の考えを明確にし、同じだったり、異なったりする考えをもっている友達と話し合うことで、より多様な考えに気付けるようにする。

3. ねらい

ロレンゾに対する3人の友達の考え方について話し合うことを通して、「本当の友達」への考えを深め、友達と互いに信頼し友情を育もうとする心情を育てる。

4. 展開

流れ	学習活動	指導上の留意点(・) 評価(◎)
導入 3分	1. 友達について考える。 ○友達とはどんな存在ですか。 ・一緒にいて楽しい人、遊ぶ人、仲の良い人 ○本当の友達とはなんですか。 ・何でも言い合える人 2. 本時の学習問題を確認する。	・自分の友達関係の在り方について想起させ、本時の課題意識を持つことができるようにする。 ・「友達」と「本当の友達」の違いを考え、本時では「本当の友達」について考えていくことを確認する。
展開 35分 (5)	3. 話の内容を確認する。 ○3人はどんな考え方ですか。 【アンドレ】 逃がす…つかまったらかわいそう。 【サバイユ】 自首を勧める…でも、本人が納得していなかったら、逃がす。逃げた理由がある。 【ニコライ】 自首を勧める…本人が納得しなかったら警察に知らせる。びくびくしながら逃げたとしたら、苦しめることになる。	・事前準備として、教材文は読んでおくこととする。 ・中心発問につながるように、3人の考えに共通する部分や違う部分を板書に整理する。 ・誰がどんな考えか、わかりやすくするために3人の名前と人物絵を貼り、その下に考えをまとめていく。
(20)	4. ノートに自分の考えを書き、話し合う。 発問① 自分がロレンゾの友達だったら、3人のうち誰の考えに近いですか。	
(10)	【アンドレ派】 ・何か理由があるかも。友達だから助けたい。 【サバイユ派】 ・自首したくない友達の意思を尊重したい。 【ニコライ派】 ・友達だけじゃ、悪いことは悪い。 【その他】 ・まずは含ってロレンゾに本当かどうか聞く。 発問② みんなから出てきた考えで、共通する思いは何ですか。	・ネームプレートを貼り、自分の立場を明確にさせる。 ・3人の考えと別の考えが出た場合は、別にまとめる。 ・どういう行動をとるかということだけではなく、なぜその行動をとることを考えたのか理由も聞くようにする。
終末 7分	5. 学習のまとめをする。 ○本当の友達とはどのようなものですか。 ・相手のことを真剣に考えること。 ・相手を信じ、大切に思うこと。 6. 「今日の学び」をノートに書く。	◎友情を深めていくために、友達とどのように関わることが相手にとってよいのかについて、多面的・多角的に考えることができている。(発言・ノート) ・今日の学習で学んだことを書く。

映像資料参照

導入では、「友達」から「本当の友達」のイメージを訊いたが、児童にとって唐突な質問になり、反応が悪かった。児童の思考の流れを考慮するべきだった。

教材の内容確認をする際に、3人の友達の名前と人物絵を貼り、そこにキーワードとなる言葉や考えを貼った。内容の確認が短時間ででき、その後の自分だったらどの立場をとるか考える際の参考にもなった。

発問①では、ネームプレートを貼り、立場を明確にしたことで、全員が自分の意見をもち、自分事として考えることができた。



発問②では、共通する友達を思いやる気持ちが発表されていたが、気持ちを文字にしてみるとたくさん板書しておくことで、学習のまとめの際にも活用できたと考えられる。

「今日の学び」では、本当の友達とは友達が最後まで信じ抜くこと、友達のことを真剣に考え、大切に思うことなど、一人一人が自分にとっての最適解を導き出すことができた。

ロレンゾの友達

「本当の友達」について考えよう
自分だったら、誰の考えに近い?

友達って?
・助け合い
・協力
・小さなことと聞いてくれる

本当の友達って?
・人中がよい (親友)
・きずなが深い。うらやまがない
・一緒にいる。信力が深い
・友達を信じたい
・友達と分け合いたい
・嫌ならきかない! よく知ってる
→友達だから 信じて
・つみをおかしてないのもいい
友達だから分け合いたい
・けいさつに任せず自分で見たい

ロレンゾが金銭の金を持ち逃げ! 罪を犯した可能性

ロレンゾを信じて 信じて
助けたい

3人の行動はちがう。
↓
ロレンゾへの思いは同じ

正しい
友達とは分け合いたい
↓
反省しやり直し